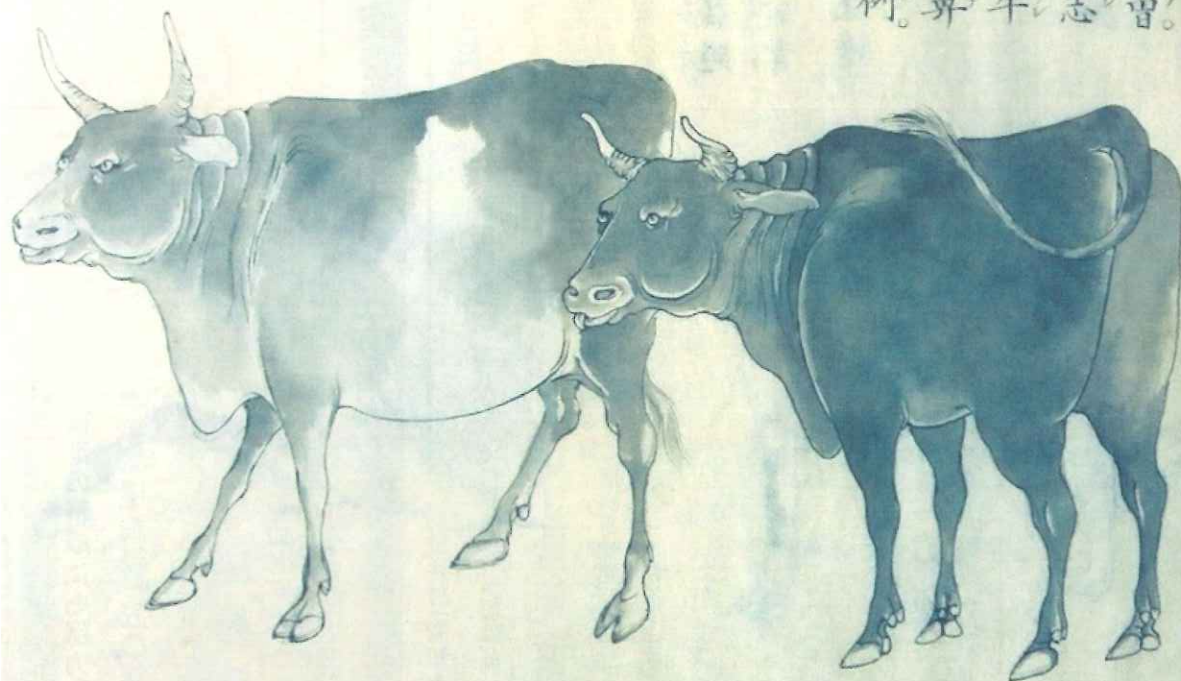


馬爾已曾
布毛太志
可久物牛
爾已曾鼻
繩波久例
云云



▲藤原(鹿持)雅澄撰 河田小龍画『萬葉集古義附録』／長崎勝憲氏蔵
(干支にちなんで河田小龍画『萬葉集古義附録』より牛の図を表紙に選びました。一部画像調整をしています。)

リレー随筆

主情的な雅澄の歌

さかきばら ただひこ
榊原 忠彦

鹿持雅澄はそれまでの万葉集研究を集大成した雄篇『万葉集古義』他、関連する多くの著作を遺した幕末期郷土の国学者であった。一方多量の短歌・長歌を遺している歌人でもあったから、その作品中より僅少なから一端を拾い出してみる。契沖や賀茂真淵をはじめ、元元国学者は先ず第一に歌人であり、歌学者であった。雅澄もその例に洩れず、万葉研究に志す二十歳頃までには早くも二千数百首の作歌がある。ときめく青春の歌は神田への藤見の途次での

鏡川浅瀬の波を脛に上げてい渡らす子は誰が思ひ妻
或いは主情的で時に実感らしい恋の歌では

妹がりと恋ひつつ行けば夜を深み時雨の雨に袖は濡れつつ

などもあるが、新婚の日の雅澄は、

妹と吾れと纏きて百夜をさ寝すがね吾が作りたる黄楊の木枕

とも歌ったが、また終生断金の交わりを継続した細木庵常(瑞枝)がその節やつて来て、新妻もできていくことだし、二人が互いに戯れ合つてエロスも漂わせた万葉張りの応答歌をやりとりした歌もロマンチックである。これと関連して今度は雅澄が谷景井や南部巖男と野市庄屋職の庵常を訪ね、同野市の美女杉村益子と五人で三泊 飲を尽くした時、一同がいやはや

羽目を外して詠み散らした戯れ歌群もあり、赤岡の絵師絵金のあの笑い絵に類する彼ら青春の真つ盛りに苦笑させられる。これは『細木庵常関係文書(上・中・下)』(高知市民図書館版)にも収載されているが、平成三年雅澄先生の生誕二百年記念事業を多彩に催した折、県立図書館一階で貴重な遺品等とともに公開した。なお右の書冊には、その野市へある時庵常を訪れた時の秀作もある。紙数の都合で已むを得ず左の如く記す。

旅の衣のはるばると／訪ひ来しけふのうれしさや／たもとすずしくよもすがら／のきばにかよふ風もよし／露の玉ちる庭の面に／やどれる月の影もよし

近世末期に和歌の一体としての感じで流行した「今様」の詠作であつて、七五調の叙情詩になつており、この軸も展示された。

以上の歌も然りながら、自伝的歌文集『山斎集』中の羈旅での相聞歌、「秋風の福井の里に妹を置きて安芸の大山こえかてぬかも」とか、亡妻を憶ふ切々たる長・短歌等々は万葉歌人雅澄の絶唱であり、秀逸歌である。

最後に願わくは「あれゆのち生まれむ人は古事のあが墓道に草なおほしそ」と墓碑に刻まれている遺歌だけは忘れないで欲しい。

(元 高知短期大学非常勤講師)

高知県立
文学館

高知県立文学館ニュース

藤並の森

Vol.43

会 紹 介
展 覧
Exhibition

鹿持雅澄展

くあがはりみちに くさなおほしそく

平成21年
1月2日(金)
▼
2月22日(月)
企画展示室
観覧料400円

ただひたすらに「古事」を究め、後進の育成にも尽力した、幕末の国学者・鹿持雅澄（一七九一～一八五八）。本年度は、没後一五〇年の記念の年にあたります。展覧会では、その人生と研究成果について、章立てでご紹介いたします。

●鹿持雅澄没後一五〇年

鹿持雅澄の先祖は、戦国時代に一條氏のあとを追って土佐に入った飛鳥井雅量といわれています。はじめは幡多郡大方郷の加持村（幡多郡黒潮町加持）に居城があり、加持氏を称していましたが、後に柳村に改姓します。



▲ 鹿持雅澄像軸（部分）／飛鳥井雅巳氏寄託

雅澄は、一七九一（寛政三）年四月二七日、

慰平惟則とその妻さよの長男として、福井村（高知市福井町）に生を受けました。当初は、柳村姓を名乗っていましたが、一八二七（文政十）年、三六歳のときに「鹿持」と改めます。

家は下士で、五六歳で白札に昇進しましたが、役職としてはごく下級で、貧窮の中にあったの研究人生を、一八五八（安政五）年九月二七日、六八歳にて閉じます。

●土佐の国文学者たち

雅澄は一八〇七（文化四）年までに中村隆蔵に入門し漢籍を学び、やがて賀茂真淵の弟子筋にあたる宮地仲枝について

国学の手ほどきを受け、作歌にも熱中します。

第六四回直木賞候補にもなった、宮地佐一郎著『宮地家三代日記』（一九七〇年六月光風社書店刊）の仲枝の項には、雅澄や当時の文人たちとの交流の様子が描かれており、今回は該当部分の自筆原稿も公開いたします。

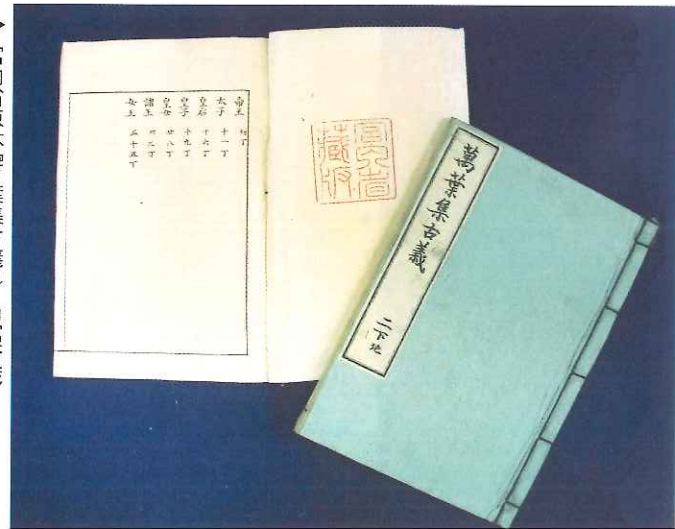
●古代へのあこがれ 『万葉集』にかけた人生

雅澄は契沖著『万葉代匠記』に触れ、生涯の志を万葉集研究に捧げようと、固く決心したといわれています。その集大成である『万葉集古義』は、死後に明治天皇へ献上され、ご下賜金によって公開されます。他にも『土佐日記地理弁』、家集『山斎集』など、その六十八年の生涯において、およそ七十種、三〇〇巻という著述を遺しています。

●吾塾道爾草勿令生曾 くさなおほしそく

雅澄は研究の傍ら、松本弘隆、横山直方、太田満穂、吉松万齡などの学者や歌人、武市瑞山、吉村寅太郎などの勤王の志士を輩出した私塾・古義軒で後進を育てます。（武市瑞山は、雅澄の甥にあたります。）また、宮内省より刊行された『万葉集古義』は、正岡子規や与謝野鉄幹、晶子、佐佐木信綱らによる万葉集研究の礎となります。高知においても、鹿持雅澄についての研究や顕彰が行われてきましたが、残念

▶ 宮内省原本『万葉集古義』／当館所蔵



会 覧 展
紹 介
Exhibition

鹿持雅澄展

「あがはりみちに くさなおほしそ」

平成21年
1月2日(金)

▼
2月22日(月)
企画展示室
観覧料400円

▶ 雅澄遺詠(墓碑の左側面)拓本/当館所蔵



余以後將生人者古事之
あれゆのちうまれむひとはふることの
あがはりみちに くさなおほしそ

高知市福井町にある鹿持雅澄邸址。そこ
から北西方向の丘の上に、雅澄の墓が、愛
妻菊子の墓と並んであります。
死の二年前に、自ら建てたという墓標。
そこには、次のような万葉仮名の辞世歌
が、力強く刻まれています。

・「あがはりみちに くさなおほしそ」
に込められた想い

ながら、近年では取りあげられることも少
なくなりました。

(私から後に生まれてくる人は、古代文化
について、私の切り拓いた道に、どうか草
を生やさないでくれよ。)

遺詠に込められた想いは、現代を生きる
私たちへのメッセージ。雅澄や、後の人々
による研究業績が、後世に引き継がれて
いくことを、願ってやみません。

そしてこれは、「古事」に限ることなく、
あらゆる文化にいえることではないでし
ょうか。

「鹿持雅澄展」では、他にも展示に合わせ
た様々な関連企画もご用意しております。
ぜひ、ご来館ください。

(学芸課/森香奈子)

◆関連企画のご案内◆

会期中いつでも参加できます

■鹿持雅澄があこがれた地・飛鳥体験コーナー

時 間：終日 午前9時～午後5時(入館は午後4時半まで)
場 所：高知県立文学館 2F 企画展示室
参加料：参加には当日の観覧券が必要です。(高校生以下無料)
内 容：会期中、古代衣装を着けて自由に記念撮影ができるコーナー
や、近年復元された「飛鳥蹴鞠」で使用されている、鹿皮で
作られた貴重な鞠の独特な感触を味わえるコーナーも設置
いたします。



■記念講演会

日 時：平成21年1月12日(月・祝) 午後2～3時半
場 所：高知県立文学館 1F 文学館ホール
演 題：「万葉人の禁じられた恋—土佐への道」
講 師：松山市立子規記念博物館長 竹田 美喜 氏
参加料：当日観覧券が必要です。
定 員：100名(要電話申込)



■「万葉の調べ」協力：繁藤雅陽会・南国雅龍会

①《雅楽に親しもう》親子で参加できる雅楽体験イベント
日 時：平成21年1月11日(日) 午後2～4時
場 所：高知県立文学館 1F 文学館ホール
参加料：当日観覧券が必要です。
定 員：25組(最大50名・要電話申込)

②《雅楽の会》雅楽鑑賞会
日 時：平成21年2月15日(日) 午後2時～3時半
場 所：高知県立文学館 1F 文学館ホール
参加料：当日観覧券が必要です。
定 員：80名(要電話申込)

☆展示解説 日時：平成21年1月2日(金)・4日(日)・18日(日)と2月8日(日)
・22日(日) 各日とも午後1時30分～(30分程度)
企画展担当学芸員が展示解説を行います。(要観覧券)

この他にも雅な関連企画を予定しています。
詳細はお気軽に文学館までお問い合わせくだ
さい。(TEL: 088-822-0231)

ターシャ・テューダー展 「コーギーコテージへ、ようこそ。」

12月25日(木)まで開催中

ただ今2階企画展示室では、アメリカの絵本作家であり、園芸家としても人気の高いターシャ・テューダーをご紹介します。展覧会「ターシャ・テューダー展」コーギーコテージへ、ようこそ。」を好評開催中です。

【コーナーごとに魅力を紹介】

展示室内を「ターシャの家へようこそ」「絵本作家ターシャ・テューダー」「魔法の時間」「ターシャのクリスマス」「ターシャの庭」の5つのコーナーにわけ、ターシャの愛用の品々や資料、写真パネルを通して、ライフスタイルから絵本作家としての業績までをご紹介します。

【一番の見所】

一番の見所はターシャの代表作の一つ、絵本「コーギビルのいちばん楽しい日」の原画コーナーです。表紙から裏表紙まですべての原画を一堂に展示しており、ターシャの繊細な筆致を間近に観ることができます。

また、「魔法の時間」のコーナーでは、子どもたちと人形遊びを楽しんできたターシャが作ったマリオネットや小さな人形の手紙、バレンタインカードなど、手作りの作品の数々をご紹介します。

ターシャの遊び心いっぱいの品々を展示したこのコーナーはぜひじっくりとご覧いただきたいと思います。

【記念撮影コーナー】

その他、2階ロビーには「ターシャの庭」をイメージして作ったテラスと庭のコーナーもあり、ここでは記念写真を撮ることができます。

手作りの品々と優しい絵に囲まれた、ターシャの世界を心ゆくまでご堪能いただける本展覧会は12月25日(木)までとなっております。どうぞ、お見逃しなく。

(学芸課/島田美和)



©Tasha Tudor and Family 2008

◆関連企画のご案内◆

・「ターシャのクリスマス絵本の読み聞かせ会」

開催日: 12月23日(火・祝) 午後2時～(30分程度)

内容: 『もうすぐゆきのクリスマス』など、ターシャの絵本を文学館カルチャーサポーターが読みます。

場所: 2階ロビー ※当日開催時間にお越しください。

参加料: 当日観覧券が必要です。

・展示解説

開催日: 展覧会開催期間中の毎土曜日 午後1時30分～

内容: 展覧会担当者による展示解説を行います。(30分程度)

参加料: 当日観覧券が必要です。

※当日開催時間にお越しください。



常設展虫めがね

高知県立文学館 常設展へようこそ

高知県立文学館は、開館十年目の昨年、常設展をリニューアルし、展示紹介する作家の入替えを毎月一名ずつ行い、「静」から「動」への文学館を目指し活動しています。

今年八月にはノーベル文学賞受賞者のロマン・ロランより薫陶を受けた詩人上田秋夫からプロレタリア詩人横村浩へ、九月には直木賞作家の小山いと子から『霧の中』『落城』など優れた歴史小



▲ 10月に森下雨村から田岡典夫に変わったコーナー



▲ 大鹿卓宛 吉井勇書簡
(昭和9年12月5日消印) 他2通

説を残した田宮虎彦へ、十月には推理小説の父・森下雨村から直木賞作家の田岡典夫へ、十一月には、天皇のご下賜金で『万葉集古義』を出版した鹿持雅澄から五山文学の双璧の一人義堂周信へ、十二月には、明治時代人気を博した新聞「万朝報」の名編集長・黒岩涙香から自由民権家の馬場辰猪を兄に持つ英文学者・馬場孤蝶へ、年明けには大逆事件に巻き込まれ死刑になった幸徳秋水から自由民権家の植木枝盛へ、二月には東洋のルソーとして知られる中江兆民から明治の翻案文学の異才宮崎夢柳へ、三月には『土佐日記』のコーナーが、五山文学の絶海中津へと変わります。

また、本年、吉井勇研究家の妻島季男さんより多額のご寄付をいただいたのを機に、本年度中に、吉井勇資料の購入（二部高知関連書簡が手に入りました）及び吉井コーナーの充実を図る予定です。

そして宮尾文学の世界のコーナーでは、平成二年一月二日より、高知新聞社企画、新潮社刊行の『湿地帯』をご紹介します。この作品は、宮尾さんが「連」で女流新人賞を受賞後に地元の高知新聞に連載された異色のミステリー恋愛小説です。宮尾さんは「ミステリー小説が好き、ほとんど無名の私のために、高知新聞が独自に企画した画期的な企画。でも結果はさんざんでした。」と語っています。しかし、この作品は、以後の宮尾文学における長篇小説の萌芽が見られる、貴重な作品です。皆さま方に企画展同様、常設展もお楽しみ頂ければと準備しお待ちしています。

(学芸課／津田加須子)

館長室から

「カルチャーサポーター」 溝渕 良一

文学館には現在六〇名を超すカルチャーサポーターの方々が活動されています。文化財団の四館（美術館、歴史民俗資料館、坂本龍馬館、文学館）で二〇人が登録されている中、半数の六〇人を超す方々が文学館に属しています。年度の初め、美術館で行われた認証のセレモニーに出席した際、他館の館長から「六〇人もいらっしやるんですね」と驚きとともに、「いろいろしてもらっているんですね」とうらやましうに聞かれました。このときは少しいい気分にならせてもらいました。

当館のカルチャーサポーターは、六つの分野にグループ化されており、以前から活動が続け、館の主要な定例事業として定着した普及活動から、資料整理や草の根広報といった地道な活動、急な手助けなど文学館の活動に幅広く関わってもらっています。特に、今年の出前活動の急増への対応には多くのご協力をいただきました。また、これまで懸案であった「文学散歩」の活動が今年になって動き出したことで、六つのグループ全てがそろい踏みとなりました。

日常の細事に煩わされながら、日々仕事をこなしていく繰り返しの中で、つい現状に慣れてしまい、カルチャーサポーターの存在を当たり前のようになってしまうがちですが、じっくり考えると、皆さんの活動は本当にありがたいかぎりです。自主、自由に取り組んでいただくことの妨げにならないよう心がけ、より一層の広がりを願っています。

カルチャーサポーター 活動一覧

- ①文学散歩
- ②資料整理
- ③イベント補助
- ④紙芝居普及
読み聞かせ活動
- ⑤朗読活動
- ⑥草の根広報部隊

紺屋のある光景 ―川島豊敏のふるさと通り―

猪野 睦

談議所を地元の人はダギシヨと呼んだ。山田堰の上段にある集落で、土佐山田の町を東へ橋をすぎ、旧県道のだらだら坂を下ったところである。その道ぞいに以前は鍛冶屋やフラフづくりの紺屋などが繁盛していた。

川島豊敏はその紺屋の長男にうまれた。城東中学をすみ、家業をつがず牧原猶紀らと「青絹」や「龍胆」をだし「日本詩壇」などに詩を載せていた。隣家には八歳上の詩をかく島崎曙海がいて、満州へ渡ると川島豊敏も後を追った。二人は大連で「成吉思汗」や「二三高地」をだし、「内地」の「現代詩精神」や日本青年詩人連盟にも参加した。太平洋戦争を前に詩誌は「満州詩人」一誌に統合させられ、川島豊敏はその編集者として満州詩壇の中心の一人と



▲ 川島豊敏の生家周辺。往年のおもかげが少し残っている。

なっていた。敗戦で一九四七年引揚げ、島崎曙海と「蘇鉄」創刊、「日本未来派」同人となつて「葡萄」や「天の孔雀」などの名品をかく一方、同胞援護会高知支部に勤め、吾川郡の奥地まで自転車、バス、徒歩の激務にたずさわった。そのなかで倒れ四八年病没した。三四歳だった。佐世保上陸時に胸部疾患を診断され、国立病院治療証明書をもっていたが、それが見つかったのは没後だった。使わず仕舞だった。

一握りの葡萄をにぎってかへる。埃っぽい焼酎や芋アメの匂ひのする部落への坂道をくだる。背中に落日がやきついてゐる。毎日通勤列車で、五里のみちを押しあひへしあひ、みえない大波小波にいつも塩をのまされ、血ばしった眼。かさかさの掌。このフクラハギの変なだるさ。(略)そしていつのまにかやられてゐた。けふも二度、炎天の舗道で嘔吐をつづけた。

葡萄は食事をうけつけない胃のためには非必要なものだった。この詩には「一房の葡萄のためにもつと美しい肉体のいろをにじませて生きたいが、もつとまじな詩を書いておきたいが」ともあった。

没後三八年目に満州から持ち帰った詩稿「肉体」が、四八年目に「葡萄」を含む「天の孔雀」が詩集としてでた。いずれも現代詩に記憶されるべき詩集である。

先日、この葡萄をにぎって帰ったというくだら坂を下り、生家周辺をたずねた。残った三軒の紺屋が往年のおもかげを保っていた。島村治文がとったデスマスクは、高知県立文学館に大切に保存されている。(詩人)

資料受贈報告

―最近の寄贈資料から―

『癪者の憲章』

大江満雄ハンセン病論集

大江満雄著 木村哲也編 大月書店発行
二〇〇八年九月 B6版 三〇八頁



木村哲也 編

著者大江満雄(一九〇六―一九九二)は一九〇六(明治三十九)年七月父馨、母ウマの長男として高知県幡多郡宿毛町(宿毛市)に生まれました。二十(大正九)年中村で水害に遭いこれを機に縁者である大江印刷を頼つて父とともに上京。同年父が急逝。満雄はここで美術製版の技術を習得しました。二三(二四年)頃受洗。この頃生田春月主宰『詩と人生』に準同人として初の作品を発表し詩人としての活動を始めました。二八(昭和三年)第『詩集』血の花が開くとき』を刊行。この頃から『プロレタリア詩』の運動に参加。三六年十月治安維持法違反で検挙され獄中で転向。以後戦争詩によって詩壇で名を成します。四三年に刊行された第二詩集『日本海流』は満雄の代表的詩集とされています。戦後はヒューマニズムを基調とする抒情的思想詩を数多く

受贈報告 平成二〇年九月(十月) 敬称略

▼豊島未来・土佐百人一首 豊島未来編 現代短歌を考へる会(他) ▼竹内艶子・(歌集) 鳩の声 竹内艶子著 高知アララギ短歌会 ▼植田馨・(高知歌壇選歌集) 土佐・海やまの歌 植田馨編刊 ▼横村浩の会・暗黒の中の光芒 草の家ブックレット⑤ 西森茂夫編 平和資料館・草の家 ▼大月書店・癪者の憲章 大江満雄ハンセン病論集 大江満雄著・木村哲也編 大月書店他 ▼市原麟一郎・(J A高知市グリーンひろば No.235 高知民話散歩「弟子恋し」市原麟一郎) J A高知市編刊 ▼山脇映子・こども小砂丘賞作品集33 小砂丘賞委員会編 高知市民図書館 ▼小松弘愛・生活語詩二七六人集 山河編 有馬敵・山本十四尾・鈴木比佐雄編コールサック社 ▼井上みつこ句集頒布会・井上みつこ俳句ふるさと 井上満子著・井上孝夫編 初音発行所

発表しました。他に『海峡』『機械の呼吸』『自選詩集 地球民のうた』などの詩集があります。また数多くの評論や『子どものためのイエス伝』など児童文学作品も残しています。九一年十月歿。大江満雄とハンセン病者との交流はある機縁で目にした病者の詩に感動した大江が五十年に多摩全生園を訪問したことに始まります。本書では病者の詩のアンソロジー『いのちの芽』(三書房 五三年)編集のことなど、全国のハンセン病療養所に暮らす人々と詩作をおして交流を続ける中で発表された大江の文章が「ハンセン病文学をどうとらえたか」「作品の解説・評論」「回復者の社会復帰の問題」「差別事件に対する論陣」そして「座談会の記録」の五部にまとめられています。

(学芸課/島村長生)

このほか、全国の個人・関係機関の方々から数多くの資料をご寄贈いただきました。厚くお礼を申し上げます。

イベント紹介

朗読コンクールは今年で
11回目を迎えました！

11月16日(日)に開催しました県審査では、地区審査で選出された県内小中学生20名が思いをこめた朗読を披露し、文学作品のイメージを朗読で伝えようと練習を重ねてきた成果が発揮されました。

選んだ作品が大好きなのだという思いが伝わってくるような朗読や、しっとりとした作品の雰囲気

をはじめ来場者の皆様からあたたかい拍手が送られました。また、当日はターシャ・テューダーの本や「マジック・ツリーハウス」シリーズの翻訳でおなじみの食野雅子さんの記念講演会もあり、本を読むと言葉が蓄積され頭と心の栄養になるので、小さい頃からたくさん本を読んでほしいとお話くださいました。

(学芸課/間城彩佳)

第11回 児童生徒文学作品朗読コンクール



審査結果は以下のとおりです。(敬称略)

金賞	高知市立昭和小学校 5年	廣井萌葉
特別賞・食野雅子賞	香美市立大栃小学校 6年	篠崎和可子
郷土文学賞	香美市立香北中学校 3年	平山裕季子
銀賞	高知市立小高坂小学校 4年	村山真理子
	四万十市立中村中学校 3年	森翔梧
銅賞	馬路村立馬路小学校 4年	門田沙弓
	四万十市立東中筋小学校 4年	国見舞
	大月町立弘見小学校 2年	安田菜恵
	土佐女子中学校 2年	大野聡子
	高知県立高知南中学校 3年	竹田弥生

その他、10名の方が入賞されました。

朗読フェスティバル 2009

特別ゲストとして、声優・島本須美さんが朗読フェスティバルに来てくれます!!



▲『地球感動配達人 走れ! ポストマン』のナレーションや『名探偵コナン』(工藤有希子役)など多彩に活躍されている声優・島本須美さん

高知県立文学館が、朗読を通して文学に親しんでいたこうと昨年度から開催している朗読フェスティバルを今年度も開催いたします!

19年度に開催した「朗読フェスティバル2008」は普段文学館と縁のうすい中・高校生の参加も見られ、幅広い層の方に楽しんでいただくことができました。「朗読フェスティバル2009」は、誰でも自由に好きな作品を朗読できる場として開催し、朗読を通じた文学の発信地として、より多くのお客様に楽しんでいただきたいと思います。

2月21日(土)午前10時より、文学館1階ホールで入場無料で開催いたしますので、参加者のみなさんの朗読を聞きにぜひお越しください!当日は、特別ゲストとして高知県出身の声優・島本須美さんをお招きします!講演も予定しておりますので、楽しみにしてください!!

(学芸課/島田美和・福富陽子)

朗読することー
それは
目で、耳で、声で、
文学を楽しむ
ということ。

2009年
2月21日(土)
開催!





※年末年始のため、12月27日(土)～1月1日(木)は休館いたします。
新年は**1月2日(金)**より開館いたします。

企画展 案内

ターシャ・テューダー展

～コーギーコテージへ、ようこそ。～

開催中

12/25(木)

◆会場／高知県立文学館 2F企画展示室

◆観覧料／一般500円(常設展含む)

食器や生活用品、絵本の原画や書籍などでターシャのライフスタイルと絵本作家としての業績をご紹介します。クリスマスの時期に併せた多彩な関連企画もございます。

12月25日(木)まで好評開催中！ 詳細は4ページをご覧ください。



©Tasha Tudor and Family 2008

鹿持雅澄展 ～あがはりみちに くさなおほしそ～

平成21年 1/2(金)～2/22(日)

◆会場／高知県立文学館 2F企画展示室

◆観覧料／一般400円(常設展含む)

幕末の国学者、鹿持雅澄(1791～1858)はその人生の大半を万葉集の研究に費やし、『万葉集古義』を著しました。本年度は、鹿持雅澄没後150年の記念の年にあたります。本展覧会では、その人生と研究成果について、をご紹介します。

1月2日(金)より開催いたします！ 詳細は2・3ページをご覧ください。



土佐のお話めぐり～おどけ者・妖怪大集合～(仮)

平成21年 3/1(日)～4/5(日)

◆会場／高知県立文学館 2F企画展示室

◆観覧料／一般350円(常設展含む)

土佐には「ひょうげ」や「いごっそう」などのおどけ者たちの愉快な笑い話や民話、「しばてん」や「えんこう」といった妖怪たちの伝承が多く残っています。

本展では土佐に残る様々な民話・伝承を紙芝居やパネルなどでご紹介します。



イベント 案内

土佐弁かるた大会

土佐民話の紙芝居もあるきね！！

有限会社生活創造工房さんと文学館が新春に贈るイベント！

巷で大人気の「土佐弁かるた」(生活創造工房)

でかるた大会を開催いたします！

どなたさまもお気軽にご参加くださいませ！

日時 平成 1/18(日) 午後 2時～
21年

高知県立文学館 1F

こどものぶんがく室にて開催！
(参加無料・申し込み不要)



朗読フェスティバル 2009

朗読すること。それは、目で、耳で、声で、文学に親しむということ。

高知県立文学館 1F ホールにて
午前10時～午後4時(予定)まで！
素敵なゲストも登場します！
(入場無料)

2009年
2月21日(土)
開催！

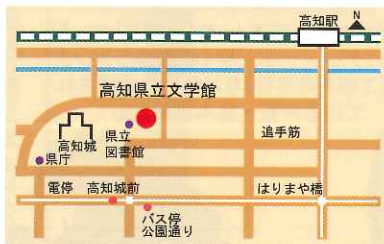
詳細は前ページをご覧ください。

利用案内

開館時間 午前9時～午後5時(入館は、午後4時半まで)
休館日 年末年始(12月27日～1月1日)を除き、無休。
観覧料 一般350円
特別企画展のあるときは、料金が変わります。
20人以上の団体は2割引。高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者及び身障者手帳、療育手帳、障害者手帳、戦傷病者手帳及び被爆者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料です。なし。ただし近辺に有料駐車場があります。
駐車場 ホール、ミュージアムショップ、こどものぶんがく室、茶室「慶雲庵」
附帯設備 企画展示室、ホール、茶室
貸出施設 企画展示室、ホール、茶室

E-mail: bungaku@kochi-bunkazaidan.or.jp
http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~bungaku/

交通のご案内



●高知龍馬空港より空港バスではりまや橋下車徒歩20分
●JR高知駅下車徒歩20分
●土佐電鉄高知駅前下車北へ徒歩5分
●バス停公園通り下車北へ徒歩5分



〒780-0850
高知市丸ノ内1丁目1-20
電話 088-822-0231
FAX 088-871-7857